

今年も開催します！

「サマーボランティアキャンペーン 2026」

ボランティアをやってみたい皆さん、ボランティアにチャレンジしてみませんか！

今年も子どもから大人まで誰もが気軽にボランティア活動に挑戦できる「サマーボランティアキャンペーン 2026」を開催します。

●開催期間● 令和8年7月1日～令和8年9月30日

開催期間に入りましたら参加方法が掲載されたチラシを配布しますので、ボランティアセンターまたは社会福祉協議会へお問い合わせください。



このキャラクターが目印！



募集

令和8年度 助成金情報

ファーストペンギン応援事業

この事業では「活動を始めたばかりで…」「頑張っているのにちょっと行き詰まって…」

「もっとやりたいことがある」など新しいことに挑戦している団体の活動を応援します。

詳細、申請方法は佐世保市ボランティアセンターへ、お問い合わせください。

対象経費 旅費交通費、謝金、印刷製本費、通信費、賃借料、その他の経費(人件費、飲食料等の会議費は対象外)

対象団体 ボランティア活動など先駆的な社会福祉事業・更生保護事業を実施している団体(法人格の有無は問わない) ※ただし、他からの財源で活動の経費が賄えている団体や、団体設立から3年以上経過している団体は原則として対象外とする。

ボランティアクイズ

QUOカードが当たる！

問題! 今回ご紹介した「いつかの災害に、いつも●●●」

●に当てはまる言葉をお答えください！

答えは、ハガキかEメールで ①住所 ②氏名 ③年齢 ④クイズの答え ⑤くれよんの感想・ご意見をご記入のうえ、下記の宛先までご応募ください。抽選で3名様にQUOカード(1,000円)をプレゼントいたします。(当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます)【応募締切】令和8年7月31日(消印有効)

宛先：〒857-0864 佐世保市戸尾町5-1 させぼ市民活動交流プラザ1階
佐世保市ボランティアセンター「ボランティアクイズ」係
E-mail: kureyon@sasebo-shakyo.or.jp



あなたらしさで広がるボランティア くれよん KUREYON



2026年度 第2号
令和8年6月1日

国際 NGO を通して世界の子どもたちに教育支援



佐世保市社会福祉協議会 ボランティアセンター
〒857-0864
佐世保市戸尾町5-1 させぼ市民活動交流プラザ1階
TEL: 0956-23-3905 / FAX: 0956-42-0102
E-mail: kureyon@sasebo-shakyo.or.jp
時間/10:00~18:00 (火~土)
休館日/月・日・祝日・年末年始・プラザの休館日

ボランティア情報を直接お届け！
LINE 公式アカウントがあります。



@227atur1



6月7月の休館日

6月 1日 7日 8日 14日 15日
21日 22日 28日 29日

7月 5日 6日 12日 13日
19日 20日 21日 26日
27日

「くれよん」はボランティアの方々のご協力によって発行されています。

支援を受けた人は支援をする人になる

世界の学校に通うことができない子どもたちに支援



近藤 一郎さん

世界には戦争や貧困のため、学校へ通うことができない子どもたちが約3億人いると言われています。

今回は、そのような世界の子どもたちに国際NGO(非政府組織)を通して支援を行われている近藤 一郎さんにお話を伺いました。

近藤さんは現在まで、6カ国の発展途上国に住む経済的に恵まれない子どものスポンサーになって就学を支援し、3カ国の学校建設に携わられています。

国際NGO(非政府組織)とは?

政府や国際機関から独立し、貧困・環境・人権・平和・人道支援といった問題に、非営利で取り組む組織の事です。



“支援活動を初めたきっかけ”について尋ねました

私は3歳で命を落としていたかもしれません。1961年、私は重い感染性の肺炎にかかりました。当時の日本は貧しく、母はアメリカ海軍士官の自宅でメイドとして働いていました。その士官が私の病を知り、入手困難だった抗生剤を無償で提供してくれたおかげで助かったのです。

以来、その恩に報いたいと願ってきましたが、60年以上前のことで士官の消息は分かりません。それならば人を選ばずに恩を返そうと考え、貧困地域の教育支援をする国際NGOを通じて子どもたちの未来を応援しています。



ベトナムの少数民族集落にて、初等教育学校開校式の様子。男の子から集落を描いた絵をプレゼントされました。



グアテマラの先住民集落にて、学校開校式で歓迎してくれる子どもたち。初めて見るだろう外国人に、とてもフレンドリーに接してくれました。



発展途上国の地方には、清潔な水の入手が難しく、電力がなく、通信インフラがない所があり、そのような場所に住む子どもたちの教育環境は劣悪です。「雨風が凌げる校舎がある」「図書室で読書ができる」「清潔なトイレがある」日本では当たり前のことを、とても感謝されます。



この情報紙は「赤い羽根共同募金」の配分を受けて作成しています。

可能な限り世界の子どもたちへ教育支援を続けたい

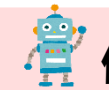


近藤さんが支援している、バングラディッシュの男の子とその家族。二人の姉弟がバングラディッシュと日本の国旗を描いてくれました。

ときおり貧しい国・地域の子どもに関わる悲しいニュースがありますが、その子どもの親も含めて十分な教育を受けていない故の負の連鎖ではないかと想像しています。

十分な教育を受けていれば大人になった時の職業選択肢の幅が広がり、貧困から抜け出す事ができるかもしれません。

また「支援を受けた人は支援をする人になる」と言われています。支援の連鎖が続けば、将来それを受けた子どもの中から世の中を良くする人物が現れるのではないかと想像するとワクワクします。



させぼ 佐世保おもちゃ病院メンバー募集中

近藤さんは、「佐世保おもちゃ病院」の代表を務められています。Facebook、Instagram、X(旧Twitter)にアカウントがりますので、活動に興味がある方はご連絡ください。

Tel: 090-1192-6814 e-mail: winpal58@gmail.com (近藤 一郎さん)



「させぼ防災ネットワーク」が紹介する防災情報!

いつかの災害に、いつも備える



【自分にピッタリの「防災」を見つけよう】いつ起こるかわからない災害。

ポイントは、3つの状況を設定した「自分に合った」ものを揃える防災用品の準備です。

1. **すぐに逃げる用**: 3日間を生き抜くための非常持ち出し袋(下記のイラスト参照)
2. **家で過ごす用**: 在宅避難を少しでも快適にするストック(ライフラインが止まった時のための非常用トイレ、ランタン、カセットコンロなど)
3. **お出かけ用**: カバンに忍ばせるお守りとしての防災用品(防災ポーチや防災ボトルなど)

非常持ち出し袋の荷物が多い場合の、おすすめは「旅行用のキャリーケース」です。玄関に置いておけば重い荷物も楽に運べます。

完璧を目指さず、まずは「これならできそう」という小さなことから始めてみませんか?

「備えあれば、憂いなし」その小さな一歩が、あなたと大切な家族を助ける大きな力になります。

